

浮ヶ谷孝夫

(指揮者)

1953年埼玉県川口市生まれ。世界の最前線でタクトを振る日本を代表する指揮者の一人。1978年に渡独してベルリン芸術大学指揮科のヘルベルト・アーレンドルフ教授に師事。カラヤン、ハンガリー、両国際指揮コンクールで受賞。1986年にはポメラニアン・フィル(ポーランド)のドイツ演奏旅行の指揮者に抜擢され、欧州でデビューを果たした。1987年より、同オーケストラの専属指揮者に就任。多数のドイツ演奏旅行やCD録音で高い評価を得ている。1989年より「ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団」と多数のCD録音。「ポーランド国立放送交響楽団」の専属客演指揮者。1996年に「ドイツ・フィルハーモニー・フンガリカ」日本ツアー。1999年に「北西ドイツ・フィルハーモニー」日本ツアー。2001年、2005年、2019年、「ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト」と日本ツアー。2003年には同楽団の首席客演指揮者に就任。2010年より愛知県豊橋市の「豊橋青少年オーケストラキャンプ」を立上げ、毎年多くの演奏家の育成に尽力。2013年より東京都主催「歴史的建造物保全プロジェクト・マエストロ浮ヶ谷プロデュース・コンサート」を担当。N響、新日フィル、日フィル、東フィル、名フィル、東京シティ・フィル、東京ニューシティ管、日本センチュリー響などと共演。多くのファンを持つ指揮者。2019年8月に東京21世紀管弦楽団の音楽監督に就任。ドイツ在住。

東京21世紀管弦楽団

Tokyo 21c Philharmonic

音楽を通して、多くの人達と手を携え、今までの固定観念にとらわれない新しい時代の「楽しいオーケストラ」を目指して演奏活動を進めて行くプロフェッショナルなオーケストラとして2019年に設立。浮ヶ谷孝夫(ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト首席客演指揮者)を音楽監督に迎え、定期演奏会では、ベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、シューベルトといった重厚なドイツ音楽で圧倒的な成功を収めている。また、青少年のための音楽鑑賞会の依頼公演に出演するほか、教育的活動にも積極的参加し、多彩で幅広い音楽活動を展開している。クラシック音楽を広く普及させる自主公演、定期公演は東京芸術劇場を拠点とし、紀尾井ホール、サントリーホール、東京オペラシティコンサートホールなど都内の主要なホールで活動をしている。2019年オスカー新人賞を受賞したテノールのステファン・ポップ、オペラ界のビッグスター、ファン・ディエゴ・フロレス、ヴィットリオ・グリゴロとの共演では好評を博した。2021年、オペラシティにて行われたベートーヴェン「第九」は、満席の聴衆を魅了し大成功を収めた。2022年第18回ショパン国際コンクール第3位入賞のマルティン・ガルシア・ガルシアとの協奏曲の夕べを展開するなど、積極的に若いアーティストとの共演の機会を作っている。このほかミュージカル、バレエ、ポップスにも出演するなど活動の場を広げている。

ブリギッテ・ゲラー

(ソプラノ)

スイス生まれ。バーゼル音楽大学でフルートと声楽を学ぶ。その後チューリッヒ歌劇場インターナショナル・オペラ・スタジオ、ハイデルベルク市立劇場を経て、ベルリン・コミッシェ・オペラで活躍。英国、フランス、イタリア、ギリシャ、中国、オーストラリアなどで活躍。ベルトラント・ド・ピリー、マーカス・クリード、ジョンエリオット・ガーディナー、エアラフ・インバル、フィリップ・ジョルダン、キリル・ペトレンコ等著名な指揮者と共演。2020~2021年シーズンにリンツ州立劇場で『フィガロの結婚』伯爵夫人、ヘンデル『リナルド』アルミーダなどで活躍。2020年、ニュルンベルク音楽大学の教授を務める。

ベアーテ・メーヴェス

(メゾ・ソプラノ)

チューリングゲンの生まれ。名高いヴェルニゲローデ放送少女合唱団で活躍の後、ドレスデンのカール・マリア・フォン・ヴェーバー音楽大学で声楽を学ぶ。ハンス=クリストフ・ラーデマン率いるドレスデン室内合唱団、その他のアンサンブルで精力的なコンサート活動を行う。ヨーロッパ、アジア、アメリカなどで演奏力を行う。これまで、ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト、ベルリン交響楽団シンフォニエッタ・ドレスデンなどと共演。2002年から2008年、ゲルリッツ劇場に出演、ベルリンのコンツェルトハウス、ザクセン州立劇場、マインツ国立劇場に客演している。

田中豊輝

(テノール・合唱指揮)

国立音楽大学大学院修了。声楽を内木邦子、佐藤峰子、眞嶋美彌各氏に、合唱指揮を辻正行氏に、合唱指導を今井邦夫氏に師事。モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」などのテノールソロを務める。'16年、'18年ドイツに招かれ浮ヶ谷孝夫指揮のブランデンブルグ国立管弦楽団と共演。現在、11の合唱団の指導者、グリーンウッドハーモニーなどのポイストレーナーとして活動。NHKラジオ高校講座音楽Iにて長く歌い手を務めている。

カルステン・メーヴェス

(バリトン)

ルート・ベルクハウス演出、オットマル・スウィトナー指揮、ベルリン国立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』のマゼット役、ハリー・クプファー演出、ベルリン・コミッシェ・オペラでのパヴェーノ役でオペラ界にデビュー。メーヴェスはリリック・バリトンのほぼすべての役柄を歌っている。また、ワーグナー歌手としてのキャリアは『トリスタンとイゾルデ』メロート、『パジルフアル』クリングゾル、『さまよえるオランダ人』オランダ人で始まった。ロベルト・シューマン国際コンクール優勝者でもあるメーヴェスは、歌の文化の重要な要素として、歌曲、コンサート、オラトリオへの愛情を持ち続けている。メーヴェスはドイツはもちろんヨーロッパ、アメリカ、アジア、日本と世界中で活躍している。

